【授業科目】健康教育論　　Health Education

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
春名 誠美　藤井夕香　北井 真紀子	3年次 前期	必修	2	45	演習	あり	巻末掲載	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／ヘルスプロモーションの実践に必要な個人因子及び社会環境の視点を取り入れた健康教育の方法、効率的で実践可能性のある健康教育について学習する。健康教育プログラムの企画・立案・実施・評価方法について、小集団事例を題材に、病院・施設・地域等で実施される健康教育を企画運営する上での技術の習得をめざし、演習を中心に展開する。 課題に対するフィールドバック方法／各教員から総評コメントを公開する。 ＊実務経験を持つ教員が授業を進める。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護援助できる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①健康行動に関する理論を活用して、健康の維持増進、疾病予防・重症化予防の管理ための健康教育の企画書・指導案作成することができる。 ②講義・ワークを通じて、個人・集団の生活、文化の視点、特性に応じた健康教育のプロセスと健康教育を実施する上で必要となる知識・技術を習得できる。 ③個人や集団の特性に応じた健康教育を実施できる。
時間外学習に必要な内容・時間	**事前・事後学習** 事前学習：教科書の該当・関連個所、随時紹介する参考図書等を読み、まとめておく。（各 30 分） 事後学習：同日の学習内容を振り返り、整理しておく。（各 30 分） 第 23 回事後学習：講義全体を通しての学びを確認し、レポートを作成する（60 分）。 図書館に下欄の参考書がそろっているので、学習の参考にすること。

授業計画	単元名	担当
	1. 授業ガイダンス・健康教育の理念	春名
	2. 健康行動理論（健康信念モデル、自己効力感、変化のステージモデル、計画的行動理論など）	藤井
	3. 対象者のアセスメント	春名
	4. 健康教育の企画・立案・実施・評価	春名
	5. 健康教育の方法―媒体作成の必要性	春名
	6. 実際の現場から	春名・藤井
	7. ワークのガイダンス（詳細は別資料）（課題：個人でアセスメント，詳細は別紙）	北井
	8. アセスメントと課題の明確化①（グループワーク）	春名・藤井・北井
	9. 〃 ②	春名・藤井・北井
	10.企画書の作成①（個人ワーク）	春名・藤井・北井
	11. 〃 ②	春名・藤井・北井
	12.企画書の作成 ①（グループワーク）	春名・藤井・北井
	13. 〃 ②	春名・藤井・北井
	14.企画書発表会 ①	春名・藤井・北井
	15. 〃 ②	春名・藤井・北井
	16.企画書の修正・指導案・媒体の作成①(グループワーク)	春名・藤井・北井
	17. 〃 ②	春名・藤井・北井
	18.媒体作成①(グループワーク)	春名・藤井・北井
	19. 〃 ②(グループワーク)	春名・藤井・北井
	20. 〃 ③(グループワーク)	春名・藤井・北井
	21. 〃 ④発表会の準備（グループワーク）	春名・藤井・北井
	22.媒体展示発表会と講評	春名・藤井・北井
	23.健康教育の評価―企画から実践の振り返り　まとめ（レポート作成）	春名

評価方法 評価基準	授業への参加度（40%）、企画書・指導案・媒体の内容（40%）、プレゼンテーションの参加態度（10%）、 最終講義後のレポート（10%）で総合的に評価する。

教科書	宮坂忠夫編著　最近保健学講座別巻1 『健康教育論』メヂカルフレンド社	参考書等	・『新しい健康教育』保健同人社 ・『健康行動理論の基礎』医歯薬出版(株) ・『健康行動と健康教育』医学書院

学生への助言等	看護職には、様々な環境で生活する人々を継続的・包括的にアセスメントする力や重症化予防も含めた健康問題の予防及び健康増進に関わる力を高めていくことが求められます。今後の実践に必要な健康教育の基礎を身に付けてください。 学生の皆さんは、主体性をもって積極的に参加してください。